

### 参考：絵のお話の設定例

- ・ 夏休み後半
- ・ 宿題提出日は近い
- ・ まだ宿題をしていない
- ・ 明日は提出日
- ・ ○○さんは分かっているけど、ゲームに夢中

…など、実態に合わせてお話を作ってください。

## 魔法の言葉～やる気を起こさせるひと言集～ (子ども向け)

- 勉強を頑張ってたもんね。(努力を認める言葉)
- すごいね。(褒める言葉)
- 能力はあるんだから。(能力を認められる言葉)
- 頑張って。(励ましの言葉)

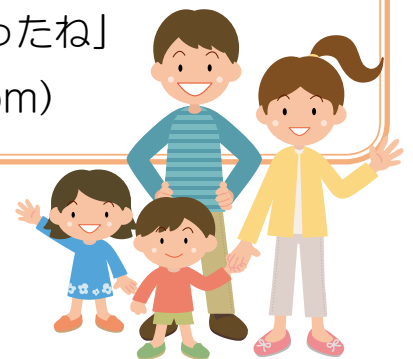
(すららネット調べ)

- 「さすが中三にもなると違うわね。お母さんが中三の時より立派かも…。」
- 「あなたなら、一人でもちゃんとできるはず。待っているから、しっかりやりなさい。」
- 「これで失敗したわけがわかったわね。次はきつとうまくいくでしょう。頑張って！」
- 「60点だったの。勉強頑張ってたのにねえ…。結果が出るのは3ヶ月後。大丈夫、この調子！」

(千歳市立駒里小中学校学校だより)

- 「よかったね」、「ありがとう」、「がんばれ」、「きっとできるよ」、「それでいいじゃない」、「もう一息だね」、「焦らず、がんばれ」、「お父さん(お母さん)もううれしいよ」、「よくやったね」

(学びの場.com)



## 魔法の言葉 ～やる気を起こさせる名言集～ (保護者向け)

○この子は才能がないからとやめさせるようなことをしてはいけません。  
たとえ才能がなくてもあふれる情熱があれば、破壊力や持続力が生まれてきます。

(「一生食べていける力」がつく大前家の子育て、大前研一)

○痛い目に遭わないと、人間はほんとうには変わらない。

だからこそ指導者は、ときにはあえて失敗させることも必要なのである。

(負けかたの極意、野村克也)

○60点でいいんです。 (子どもの「花」が育つとき、内藤寿七郎)

○あれこれしないで見守ることは、モノを買ってやったり、何かをしてやったりするより、ずっと難しく愛情のいることです。 (PTA文集)

○親は、子どもに、友だちと同じである必要はないと言ってやりましょう。  
人がそれぞれ違うことは大切なことだということを、子どもにぜひ教えてあげてください。

(子どもが育つ魔法の言葉、ドロシー・ロー・ノルト)

○子どもは一人一人違うのだということを頭に入れて、あわてないで信用し、子どもになんでもさせる。

失敗は多いほどいいのだから、失敗しても決して叱らない。

「やる気を育てる」にはこれ以外の方法はない。

(吉岡たすく)

